

第2回奈良市の地域教育を考える委員会会議録

平成24年12月18日 会議

地域教育課

平成24年度 第2回 奈良市の地域教育を考える委員会 会議録	
開催日時	平成24年12月18日(火) 14時00分～15時35分
開催場所	奈良市水道局4階大会議室
内 容	<p>○ 開 会</p> <p>1 西崎教育総務部次長あいさつ</p> <p>2 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文部科学大臣表彰の報告 ・ 奈良市地域教育推進事業の取組 ・ 委員会の設置と経過 ・ 部会の設置と提言作成 ・ 交流の集いについて <p>3 その他</p> <p>○ 閉 会</p>
出席者(委員)	<p>岡田龍樹委員 月出(佐野)万里子委員 竹村健委員 畑中康宣委員 藤田正博委員 魚谷和良委員 新免照代委員 中西拓也委員 北田和美委員</p>
(事務局)	<p>西崎教育総務部次長 田町教育総務部参事 林地域教育課長(事務局長) 松本教育支援課長 北谷学校教育課長 山下子ども育成課長 山岡子ども政策課長 地域教育課から7名</p>
開催形態	公開
担当課	地域教育課

議 事 お よ び 協 議 内 容

○ 開会

1 西崎教育総務部次長あいさつ

委員の皆様、こんにちは。

本日は、年末の押し迫った時期にもかかわらず、ご多用のところ、第2回奈良市の地域教育を考える委員会にご出席いただきありがとうございます。本来なら、教育長が参りごあいさつを申しあげるところですが、本日、12月議会の開催により出席できませんので、代わりましてごあいさつ申し上げます。

平素は、本市の教育行政にご理解とご協力をいただいておりますことに対して、心から厚くお礼申し上げます。本市では、「地域全体で子どもを守り育てる体制づくり」をめざし、「地域で決める学校予算事業」と「放課後子ども教室推進事業」を奈良市地域教育推進事業の柱に位置づけ、事業を展開してまいりました。

「地域で決める学校予算事業」は3年目を迎え、学習支援や環境整備、登下校の見守り活動の取組が充実するとともに、中学校区を単位とするイベント事業も着実に増えております。また、「放課後子ども教室推進事業」も、これまでの26小学校区から、全ての小学校区で開設し、地域の多くの方々の支援を受けながら、学習・交流・体験活動など、平日や土日を問わず、取り組んでいただいております。

本日の考える委員会では、担当課よりこれまでの取組の報告と、これからの委員会の方向性について提案させていただきます。委員の皆様には、本市の地域教育推進事業が円滑に推進できますように、様々な立場より忌憚のないご意見を頂戴できればと思います。今後とも、本市の事業にご協力を賜りますようお願いいたしまして、挨拶とさせていただきます。

2 議事

岡田会長 本委員会は、運営要領により公開とさせていただきます。また、会議録を作成するため、録音と写真撮影を行いますことをご了承ください。本日の会議録の署名は、藤田委員と魚谷委員にお願いします。本日の会議の傍聴希望はございましたか。

事務局 傍聴希望はございませんでした。

岡田会長 では、議事に入らせていただきます。次第の1. 文部科学大臣表彰の報告 2. 奈良市地域教育推進事業の取組 3. 委員会の設置と経緯 4. 部会の設置と提言作成 についての説明を事務局よりお願いします。

事務局 (資料およびプレゼンを使って事務局説明。) これまでの課題を整理する意味で、今後に向けて、各委員の立場より課題を出していただきたい。

岡田会長 事務局より、次第の1～4までを説明していただいた。私は平成22年本委員会の前身である奈良市地域学校連携推進委員会から関わらせていただき、3年目になる。この間色々な課題があって進んできた。各中学校区に地域教育協議会ができ、組織づくりにしっ

かりと取り組んできた。中学校区で一つにまとまるのに時間がかかった校区もある。3年間かけ、学校支援地域本部事業の文科省委託が終わる時点で、ほぼ組織づくりができた。

その次に、文科省も含めての課題であるが、様々な事業を一本化するという課題に取り組み、それもほぼ達成した。また、一本化するプロセスで、コーディネーターをきちんと育てる目的で、研修事業にも力を入れてきた。私も11月9日のコーディネーター継続研修を見せていただいたが、顔なじみの方もたくさんおられた。研修においても参加者が主体的に意欲とノウハウを持って取り組んでいた。まだまだ課題もあるが、おおよそ達成されつつある。これも、地域の方々が、この事業を前向きに受けとめ、協力してきたからだ。この委員会のめざす組織づくりやコーディネーターの育成は、クリアしてきた。市として次のステップや、目指すところが必要になっている。関わっている方々が目標とすべきことを設定すると、さらにがんばってくれる。次回の第3回の委員会で、そういう方向性を提言できればと考えている。これらのことを念頭において、取り組みの感想、意見、課題、改良されたことなどを、関わってきた立場からお伺いしたい。

組織ができ、中学校区での取り組みも、22校区のうち15校区にまでが中学校区全体で動けるようになってきた。これは、中学校区を運営するコーディネーターが存在し、コーディネーターの力がついてきているからだ。中学校の校長先生の立場としてどうか。

新免委員 1小1中、3小1中といろんな校区がある。私どもは、来年から中学校区でのイベントを考えている。複数の小学校を抱えている校区の成功例を聞かせてほしい。

また、平成27年度から始まる小中一貫教育にも生かせると考えている。

岡田会長 複数小学校を抱える中学校区での成果があった例や、ご苦労などあればお願いしたい。都南は、5小1中だが。

畑中委員 先日平城中校区のイベントに参加した。平成22年度から開始したとのことだが、地域の方々と昔から関わる伝統があつてのことだと思った。伏見校区でもコーディネーターの方はイベントを考案中だが、まだ実現していない。また、PTAが主体で取り組んでいるところもある。市として今後も取り組むのなら、市P連でも取り組みを聞き、集約していこうと思っている。小中一貫教育、小同士、小中の連携にも結び付いていく。

竹村委員 都南校区では、サクラドリームフェスタなどが行われているが、決まった人が活動し、一般の人にどれだけ浸透しているかということ、十分ではない。地域にもっと丁寧に広報していく取組をすることが課題だ。

岡田会長 先ほど顔なじみの方がたくさんいたという話をしたが、顔なじみということは、長年関わっている方が多いということだ。後継者問題も課題だ。

藤田委員 色々な地域の方と話をすると、都跡は1小1中なので、予算的には少ない。他の地域は恵まれている。取り組み始めて5年になるが、毎年の行事が定着化して、マンネリ化している。発想を新しくして次の取組をする必要がある。南北に長い地域なので、各地区の催しも多く、小や中で実施しても一同に集まりにくい。年1回の祭りでしか協働しにくい。さらに地域と学校の関わりを増やすには、事業を年2回程度は実施したい。実施に向け、いろいろと研究させてもらおうと思っている。

岡田会長 昨年度のプレゼンの場でも、都跡は早くからまとまって動き始めた校区であるので、最初にマンネリ化するトップバッターとして、それを打ち破るモデルになってほしいと

話した。今、都跡は、殻を打ち破る転換期に差し掛かっている。

中西委員 過去5年間で、既存の組織を活用した組織が作られてきた。今からは、5~10年の長期展望に立った人材育成という視点に立つ必要がある。子どもの親はやがて地域の人となっていく。PTAの取組からヒントを得て、地域の取組として実現していく。小学校のPTAから中学校のPTA、そして地域の人となり、リーダー的存在となるという仕組みになればいい。PTAと教員は近い。PTAが地域の人になることを含め、グランドデザインを描けば、より活性化していくのではないか。平成27年から始まる小中一貫教育も、より大きなキーポイントとなる。

岡田会長 コーディネーターの出自は、PTAが一番多い。PTA人材を生かすのは一つのめざすところだが、逆にもっと多様な人材を巻き込んでいくことも必要だ。長期的展望を持って関わっていただける方をどういうふうに発掘していくかも課題だ。

魚谷委員 5年間の流れを聞かせてもらい、問題があるから事業が立ち上げられ、環境が整い、コーディネーターが育ち、解決されてきている。しかし、主役は子どもである。小中で子どもを取り巻く問題がどう残っているのか、聞かせていただきたい。

岡田会長 コミュニティー、大人の組織づくりは進んできた。子どもの課題に迫りたい。

魚谷委員 イベントはしたが、子どもの変化はどうか。成果は何か。

岡田会長 成果を評価できるような仕組みが必要だ。幼稚園の立場からどうか。

北田委員 富雄第三小中学校は開校2年目だ。地域教育協議会も発足2年目。コーディネーターのがんばりで、いろいろな事業を実施し、ボランティアの輪も広がっている。地域にいる子、地域で育つ子として、子どもたちを見ていただいている。小中に進学した時に、子どもたちをどう育てていくのかを事業を通し、地域行事に参加し、見据えていきたい。

岡田会長 県の学校地域連携事業にも関わらせていただいているが、奈良県の子どもは学力は高いが、体力や規範意識が低い。取組による子どもへの成果があったか問うと、奈良県の子どもの規範意識ポイントは上がったが、全国も上がり順位は変わらないので成果は見えにくい。どのような側面の成長を支援しているのか見えてくると、関わっている大人のモチベーションも上がるのだが。

佐野副会長 組織づくりに取り組んできた経過が分かった。さらにステップアップするためには、イベントの中身や質の向上が必要。イベントの目的や成果、子どものどういった面を育てるか、をしっかりと把握してほしい。公民館でも、講師や安心安全のボランティアの面で人材を提供していきたい。子どもの笑顔や成長が見えてくると、がんばれる。資料にはないが、もっと出していけばと思う。

岡田会長 長く関わっているコーディネーターは、研修もおこなえるくらい成長している。さらに次のステップを欲している。プログラム作り、イベント事業の運営段階から、研究的に深めること、他地域を支援する取り組みもできればいい。サポートセンター設置の話が毎回出されるが、コーディネーターが次のステップにいける展望も必要。

長期展望に立ち、人材の確保、地域の目標、子どもの成長、大人の成長に関わって次はここへ行きましょうという目標が必要。

中西委員 私は、放課後子ども教室の最初の打ち合わせで、地域の方にはっきり目的を2点話す。1つは、地域の方とのふれあいを通して楽しく活動し、コミュニケーション力を高めるこ

と。2つ目は、社会の人、大人の人との関わり合いの中で、社会性・あいさつ等の礼儀作法を育てるということだ。放課後の活動の中で、地域の方から、元気をもらった、教えること、怒ることができた、という言葉をもたらしている。子どもたちは、大人と触れ合う場で、人間性が醸成されやすい。学校としては非常に助かる。学校にできないことを担っていただいていると考えている。

岡田会長 いろいろな可能性のある取組だ。今の発言のように目に見えるようになることが必要だ。
新免委員 今年放課後子ども教室事業と地域で決める学校予算事業は、予算的には別だが、一本化することを事務局は考えているのか。

事務局 今年、組織としては放課後の受け皿が運営委員会になった。予算は二本立てになっている。活動していただいているコーディネーターもほぼ同じになっている。予算も将来的には一本化されればいいと思っているが、地域の方の意見も聞きながら、長期的展望を持って組織も予算も一本化していきたい。

岡田会長 地域教育協議会の中に幼小中の運営委員会がある。放課後子ども教室は小学校の中に位置付いている。

事務局 国は一本化している。その点も考え合わせながら進めていきたい。より効率的な部分もある。また、早く一本化してくれという地域もある。順次していくのがいいのか、一斉にするのがいいのか、課題も考え合わせて検討していきたい。

岡田会長 今年度、一本化して申請している地域はあるのか。

事務局 それはない。

新免委員 本来は一緒であればいいと思う。今はコーディネーターが同じなので、住み分けて活動していただいている。混乱を避けるには明確にすべきだ。小学校では熱心に活動に関わっている。中学校では、PTAのOB育てが必要だと考えている。保護者も長いスパンでいろいろなことに関わる体制がほしい。校区ごとにいろいろな課題、目的があるが、子どもの課題と地域コミュニティーの課題が一本化する形で取り組むことができればよいと考える。

岡田会長 子どもの成長のための課題が、地域の目標となって、目に見えるような形になり、そこに向けて頑張れるようになればよい。

藤田委員 PTAのOB、教職員のOBがコーディネーターになってほしいのだが、「はい」という答えが返ってこない。PTA役員もやる人が少ない。1年、2年でほっとして、次のステップはしないということになる。こういった現状は、うちも、他も同じだと思う。

岡田会長 そもそもPTA役員のなり手が少ないという現実ですね。

藤田委員 PTA役員として活動してもらっているが、コーディネーターにというのは難しい。

岡田会長 PTA役員OBの意見も生かし、現職PTA役員の負担も軽減しながら活動するということにならないか。

竹村委員 小学校PTA役員から中学校PTA役員にはなるが、高校になると役員になってもらえない。そもそも、PTA役員OBがコーディネーターになってもらうという考え方が間違っている。

高校になると大学進学に力を入れていくから、離れていく。PTA役員OBは、1年ぐらい顧問はしても、離れていく。利用してうまくいくはずがない。

岡田会長 利用というのではなく、過去の経験を生かして力を貸していただくということだ。

竹村委員 間違っている。

岡田会長 PTA 役員 OB が多いのだが。

竹村委員 だいたい PTA 役員の現職と OB の関係も難しい。徐々に手を離していった方が、現職が活動しやすい。

岡田会長 自治連合会で地域教育の研究会を立ち上げてもらったが、自治会からそういう人材が出てこないのか。

竹村委員 それは別のことで、PTA 役員 OB でコーディネーターをとという考え方は間違っている。自治会から地域としてお手伝いすることはある。子どもがいないのに、PTA 役員 OB として関わるのはどうか。

岡田会長 PTA 役員の成り手が少ない。県 P の役員も PTCA にならないと回らないと言っている。C はコミュニティーの C だ。PTA だけに頼るのではなく、いろいろな考え方が必要だ。意見を一つにまとめるために、小部会を設置して、意見を整理していただけたらと考える。事務局の方から、小部会のメンバーに関して提案していただけるか。

事務局 推進委員会の時は、取り組みの共通理解を図ることを主にしてきた。考える委員会では、次年度につながるような提言をしていただいている。昨年度は組織の一本化をとという提言を受けて、それを実現してきた。今日も、いくつかの将来に向けた方向性や課題を出していただいた。一つは、市の提起する小中一貫教育に、地域を巻き込みながら、中学校区全体で学校づくりをしていく上で、協議会や運営委員会の果たす役割を大事にしていくということ。さらに今一つは、地域の皆さんは一生懸命だが、それを学校はどう受けとめているのか、うまくニーズがマッチングしている中身になっているのかどうか、ということも考えるべきことだ。さらに、もう一つは、放課後子ども教室の予算と地域で決める学校予算事業の予算を、一本化する方向性について、もっと大きな視点で考えていくこと。また、国の流れも考え、予算がなくなると組織がなくなるというのではなく、学校の教員は変わっても地域におられる方は変わらないわけですから、地域の方が中心になる中で、地域と共にある学校づくりをいかに進めていくか、という視点が必要です。そういった種々の課題を、小部会を設置してまとめていきたい。そしてそのまとめたものを、考える委員会に提言していきたい、と考えている。2 回ぐらいご意見をいただき、まとめにご協力いただける方ということで、事務局の案は、地域・家庭・学校を代表する方々ということで、地域からは協議会長代表の藤田委員、家庭からは市 P 連会長の畑中委員、学校からは中学校代表の新免委員に、お願いしたい。そして岡田会長、佐野副会長を加え、計 5 名のみなさんをお願いしたい。今回いただいた意見をまとめながら、今後 3 年 4 年後を見すえた、地域学校連携事業の進め方についての提言を、次回の考える委員会で、提起していただけたらと考えている。大変お忙しい中で申し訳ありませんが、提案とさせていただきます。

岡田会長 お忙しいところ申し訳ないのですが、よろしくお願いしたい。委員の皆さんも賛成いただけますでしょうか。小部会の設置も含め承認されました。このようなことも話し合っほしいとの要望がありましたら、事務局を通じてご意見を寄せていただきたいと思います。ありがとうございました。次に、交流の集いについて、事務局から説明があります。

事務局 (交流の集いについての事務局説明)

岡田会長 用意されていた議事がすべて終了した。何か事務局で追加はあるか。ないようなので、これで議事を終わります。本日は、貴重なご意見をいただきました。小部会でしっかりまとめて、提言させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

3 その他

事務局 次回の第3回地域教育を考える委員会は3月ごろを予定しています。その前に、小部会を2回ほど実施します。日程調整をさせていただき事前に連絡させていただきます。

○ 閉会

- ※ 資料
- ① 平成24年度第2回奈良市の地域教育を考える委員会次第
 - ② 平成24年度第2回奈良市の地域教育を考える委員会プレゼン資料
 - ③ 「地域で決める学校予算事業」中学校区におけるイベント事業
 - ④ 平成24年度放課後子ども教室実施内容一覧
 - ⑤ 平成24年度 奈良市地域教育推進事業（研修計画）
 - ⑥ 平成24年度コーディネーター研修総括
 - ⑦ 奈良市地域学校連携に関わる委員会設置の経過
 - ⑧ 奈良市地域教育推進事業第2回「交流の集い」（案）

平成 年 月 日

署名委員

署名委員
